

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	幼児と音楽表現		
担当者(Instructors)	矢内 淑子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)
幼児の音楽的表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びや環境の構成などの領域の専門的事項についての知識・技能・表現力を身に付ける。

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	講義・演習形式で行う。授業の内容に応じて。ディスカッション及びグループワークを取り入れる。

■ 各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	領域「表現」と音楽表現	領域「表現」における幼児の音楽表現のについて考える。その際、表現の生成過程について学び、グループディスカッションを通して幼児の表現の捉え方を深める。	□
第2回	領域「表現」のねらい及び内容の理解	保育所・幼稚園・認定子ども園における音楽的表現活動の実践例から領域「表現」のねらい及び内容の位置づけについて理解する。	□
第3回	音楽的遊びに見る乳幼児の発達（0歳～1歳）	0～1歳児：母親や身近な人たちとの応答的関わりや自発的・主体的な音楽的表現遊びの姿から、幼児の音楽的発達の特徴を理解し環境設定を考える。	□
第4回	音楽的遊びに見る乳幼児の発達（2歳～3歳）	2～3歳児：自発的・主体的な音楽的な音楽表現遊びの姿から、幼児の音楽的発達の特徴を理解し環境設定を考える。	□
第5回	音楽的遊びに見る乳幼児の発達（4歳～5歳）	4～5歳児：自発的・主体的な音楽的な音楽表現遊びの姿から、幼児の音楽的発達の特徴を理解し環境設定を考える。	□
第6回	音・声・身体・楽器による音楽的遊び	音楽療法的視点で音・音楽に対する考え方や子どもたちを捉える視点を変えることにより、受容的・創造的で豊かな音環境について考える。	□
第7回	音楽表現活動の実践（わらべうた）	子どもの成長・発達を踏まえて、わらべうたや絵描き歌、伝承遊びを数多く体験する。音楽教材として、これらの遊びの面白さがどこにあるのか音楽的要因を探り発展させる。	□
第8回	音楽表現活動の実践（手遊び・リズム遊び）	子どもの成長・発達を踏まえて、手遊びやリズムあそびを数多く体験する。音楽教材として、これらの遊びの面白さがどこにあるのか音楽的要因を探り発展させる。	□
第9回	音楽遊表現活動の実践（楽器遊び）	三要素(音高・音量・音色)や倍音、楽器の分類について学び、多くの楽器に触れることにより、楽器の音色について考える。	□
第10回	音楽表現活動の実践（子どもの歌）	保育者と子どもの歌唱表現について考える。子どもの歌から園生活・行事・季節・いろいろな歌を中心に選曲して歌う。言葉や楽曲理解の上に立った、表情豊かな歌唱表現や子どもの歌声を引き出す歌唱法を学ぶ。	□
第11回	音楽表現活動の実践（子どもの歌・伴奏付け）	保育者と子どもの歌唱表現について考える。簡易伴奏法を学び、子どもの歌の楽曲にあった伴奏付けを行うことで、子どもの歌のレパートリーを増やす。	□
第12回	音楽表現活動の実践（楽器・歌唱）	手作り楽器や簡易楽器による合奏等のアンサンブルや歌唱を通して、音の重なり的美しさを体験する。	□
第13回	音楽表現活動の実践（創作）	これまで数多く体験した音・声・身体・楽器によるアンサンブルを通して、身体・言葉・音楽・イメージの視点から整理し、グループで創作を試みる。	□

第14回	音楽表現活動の実践（発表）	グループ発表を行う。授業評価基準で自己・他者評価を行い振り返る。	☐
第15回	音楽表現活動の意義と課題	領域「表現（音楽）」の意義と課題を、これまでの知識・体験をもとにまとめる。	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)
事前学習として、毎回の授業テーマ・内容に沿ったキーワードについて調べ、授業理解の助けとする（2時間程度）。事後学習として、授業内容や授業理解等について課題レポートにまとめる。さらに、幼児の音楽的表現活動を支えるピアノ演奏・弾き歌い・歌唱等の実践力を高め、必要に応じて音楽教材研究・制作を行う（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)
必ず次回の授業テーマ・内容を見て授業に参加する。各回の授業後に、授業理解をするためのレポート課題を実施する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	幼児の遊びや生活における領域「表現」のについて要領・指針を基に説明できる。表現を生成する過程について理解することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。協同して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。様々な音楽的表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			20%	80%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) レポート課題（80％）実技課題（20％）				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「幼稚園教育要領」（文部科学省）	
2	「保育所保育指針」（厚生労働省）	
3	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（内閣府、文部科学省、厚生労働省）	
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	無藤隆、吉永早苗「子どもの音感受の世界」 萌文書林	9784893472298
2	石井玲子「実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現」 保育出版	9784938795788
3	「遊び集」 佐賀大学文化教育学部付属幼稚園	
4		
5		